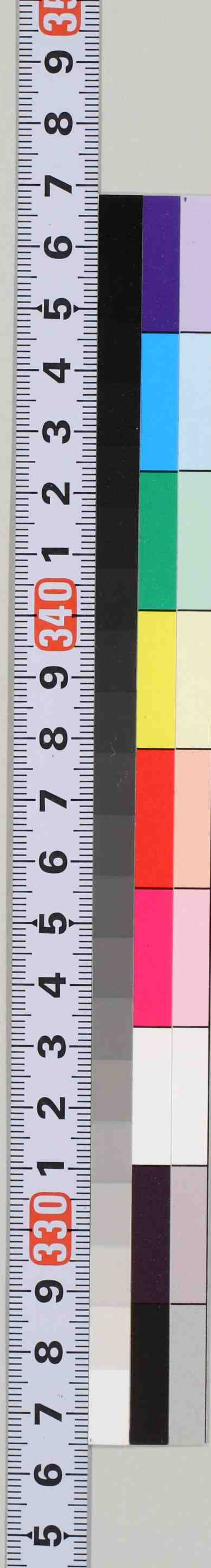


頭書

算法綱疑抄

四



増補英法訳彙抄 四之巻目録

世に傳へる部

蕎麥粉く定法

蕎麥く定法

蕎麥乃呼法

木枕通し入

縦横屋敷通

勾股換

一箇英換をいふ事

曹元環が事

趙進が事

大入坊源姓が事

妻陪暗明が事

時く替へる事

氣味を在る事

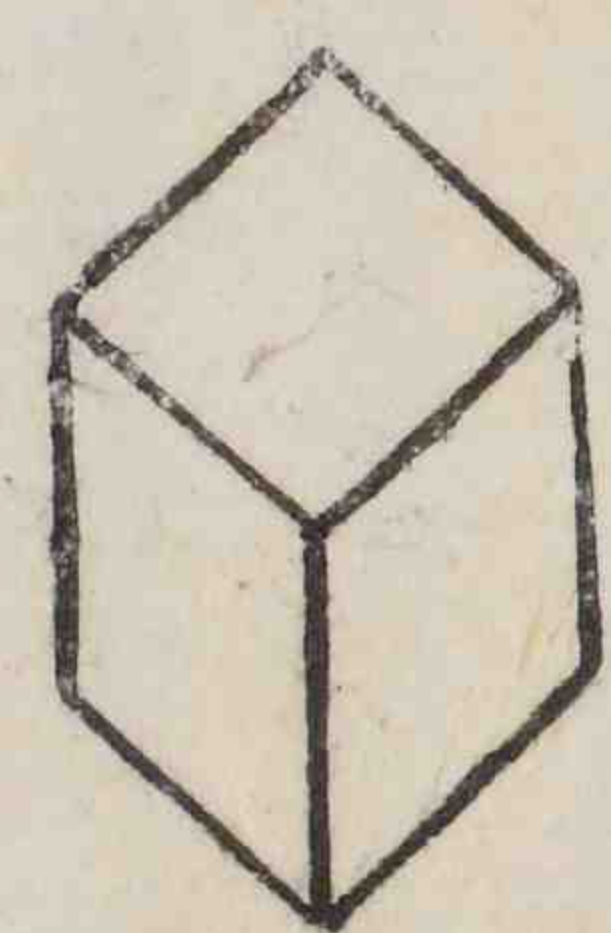
いろは目付字の事

由之而くもて通ては
 の方後くもて通ては
 田舎もあつた極めは
 かされたりは誤りあり
 かやりの不肖尾金
 子にありては子に
 定るの所多し
 秘法はふくむべき
 書はわづらひく
 強て截玉截る
 以せりとは知人
 か不人奥深き

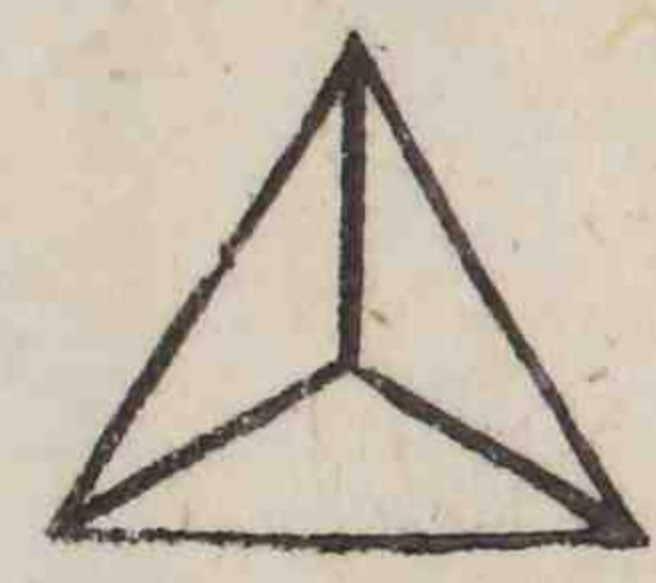
為記はせり助者へは
 て世ふつて人
 古の考極
 知りては
 知りては

前記は通ては
 増補不は
 肩書は
 て何と
 記は
 ろり
 むし
 友人
 多て

大入
 日
 八五と
 四起ハ



本坪千坪
 惣持坪八

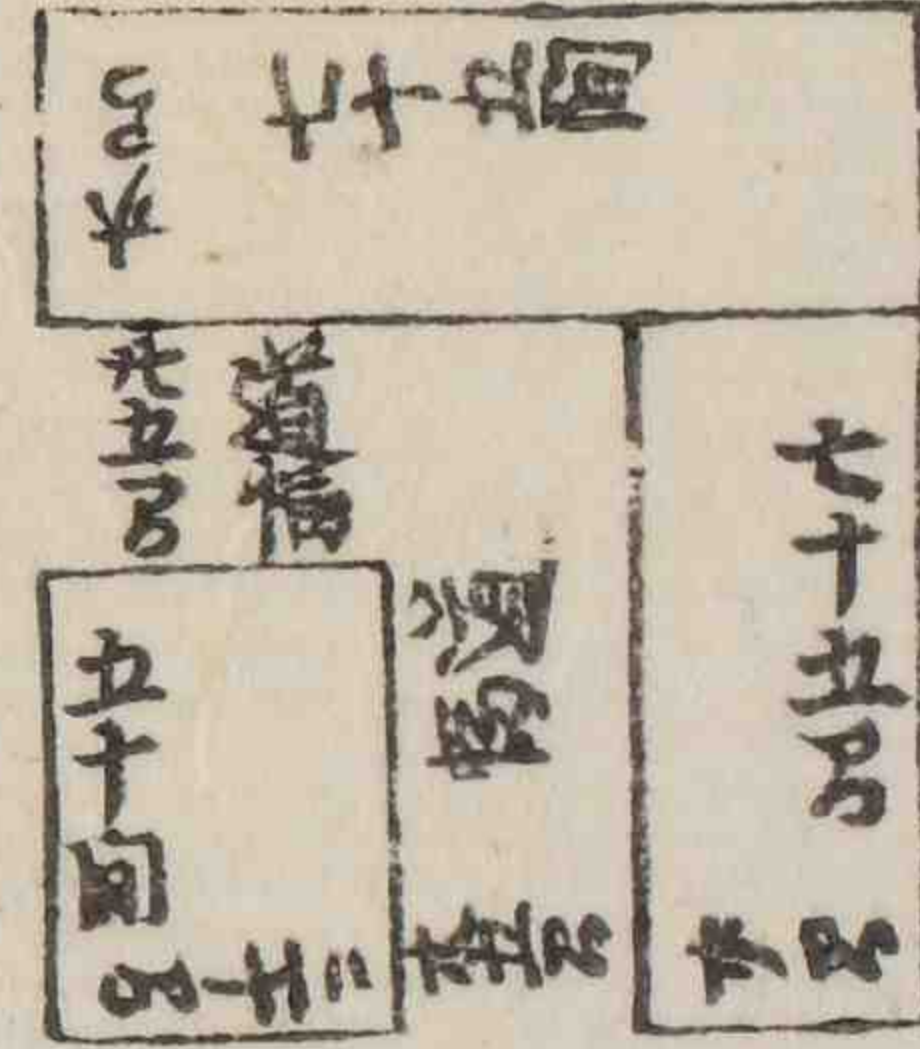


定法
 坪百八坪
 定法

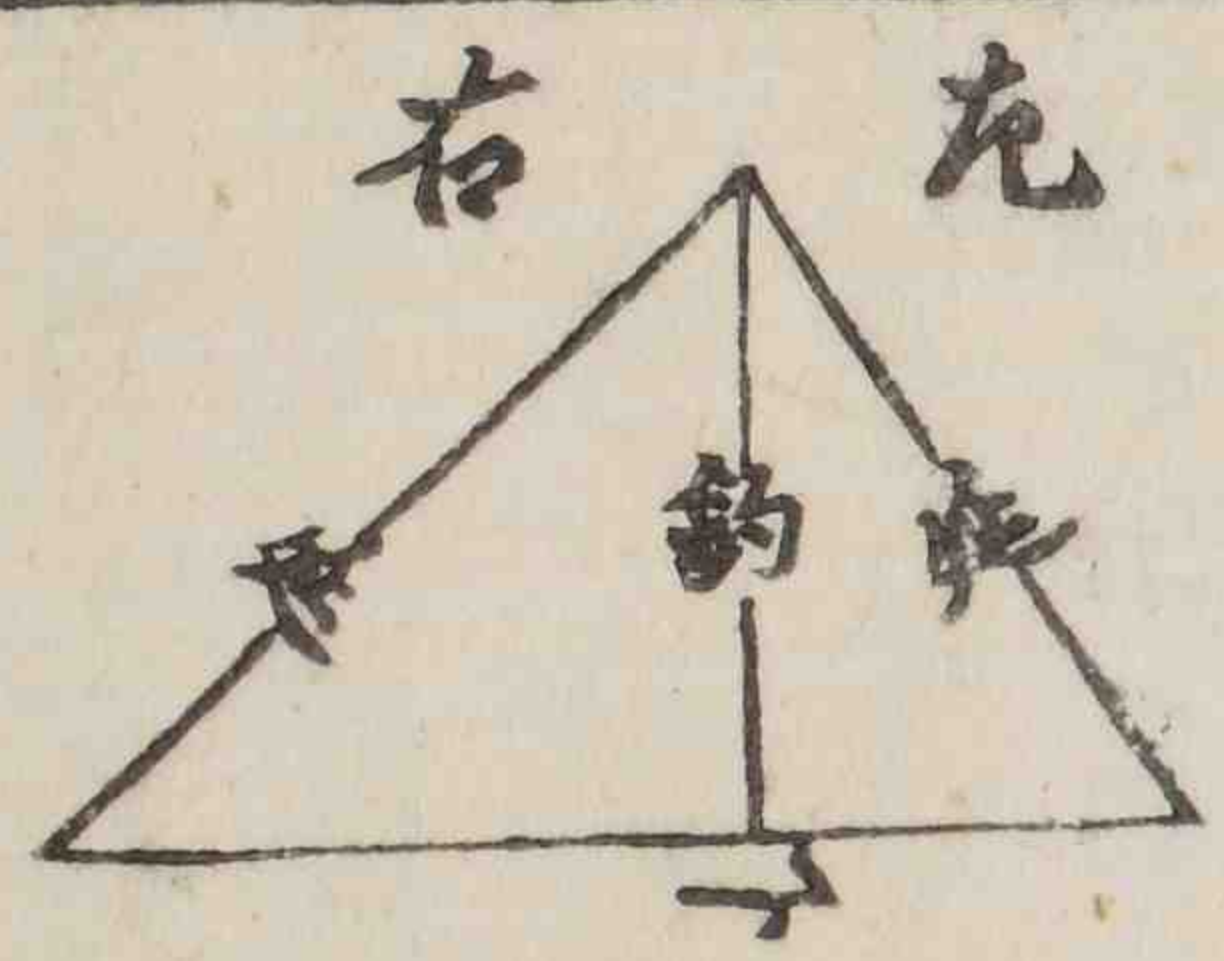
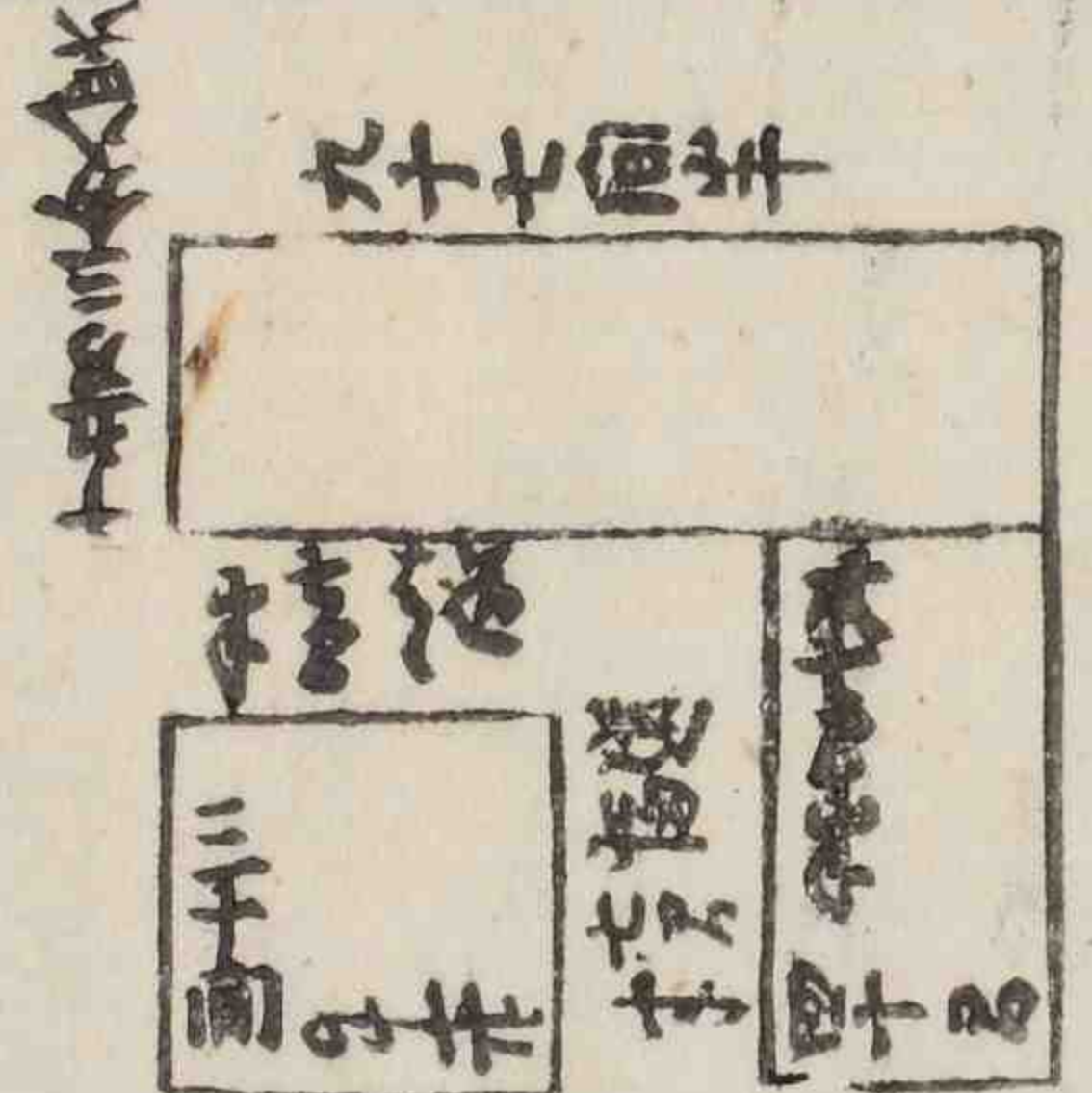
ろり毛虎の尾を打
ち也其の時を此
又堪囊鏡之説ハ
山東禪院ノ寛海記云
菩提心論云至十五日
満无尋文以千冠爲
果也千ノ冠ハ九識ノ
大目也故九ノ吹也未冠ハ
第八識ノ阿闍ノ故ハ吹
申冠ハ第七識ノ寶生
ナルカ故七ノ吹也酉ノ冠ハ
第六識ノ无量壽ノ分
故六ノ吹也戌ノ冠ハ身識
ノ不空成就タル在ル吹
也亥ノ冠ハ眼耳鼻舌

四識也普賢文珠觀音
彌勒之四菩薩也其
合爲一冠故四ノ吹ナリ
九ハ七六五ノ心王ヲ各合
也言心ハ以八識攝九識
故七識攝九ハ以六識攝
九ハ七ハ以五識攝九ハ七
眼耳鼻舌之四識各九ハ七
六五ノ攝也ト云々此記十二
時ノ螺ノ數ノ變ト云々各
吹ト云々誠ニ昼夜十
二時ナレハ自一至十二
又數ノ滿ナレハ以十至極
スヘキニ以九爲滿數
故四寂下トス尤由有ヤ

佛のいふをわけ坪分
ト時通幅サキ
のる数と



又云クも九接する手
口も六接乃屋敷、道幅
わけ坪分、ろへて分
ろへて坪分
千五坪宛



或人言云世
乃の方延下
坪分宛宛
右の方延下
坪分宛宛

ひうくわゆる
うげうきくわゆる
若く記し板石持た
彼ゆと加くさる
るうき書きとて
前書とてくして
被見乃きくわゆる
とく移ふもの也

法書修めあしるや
さるるの法義我の
人負けはくさる
よぐ然しとれ
法を以てい
保んやうかん
以て是より
は原好とて
の如く
是は眼
付共光由の
動智うて

七十二間ト八十一間掛合
一倍スル術意之圖也

八十一間

四十間	四十間
△	●
×	○

積股勾

八十一間

四十間	四十間
○	●
☆	⊕

同平ノ三和ヲ知圖丸記

吉田光由好云



東いぬい折廻二方丸
八接より

いぬいの方座を
ひりし中身座を
又東方長い

東よりし中折廻二方
九七接より

法書修めあしるや
東方曰接より
乾方三六間 坤方二十七